



ロータリーの友便り

ロータリーの友
地区代表委員

庄野 晋吉

(大阪RC)

(1)ロータリーの友・5月号推奨記事 ※推奨記事順
【3ページ】

まず、今月のラビンドランRI会長メッセージです。

題目は「ロータリーの物語は書き換えられなければならない」です。会長はケニアのある地域社会の水供給の改善事業に当たって、女性の意見が入れられていないことを取り上げて、現在の世界のロータリークラブの20%が女性の入会を拒んでいることを問題視しています。女性の入会を拒むことは女性蔑視であると決めつけて、それを変えるべきと訴えています。会長はポールハリスが「ロータリーの物語は何度も何度も書き換えられなければならない」と言った言葉を少し曲解して主張されているように思われます。ロータリーの歴史の中で女性を入会させてはならない、とはどこにも謳っていませんし、女性蔑視をしてよいとはどこにも触れられてはいませんし、ロータリーは時代にあわせて、変革していかねばならないことも当然のことです。小職が所属する大阪ロータリーにも女性会員は現在3名です。日本で最古の東京ロータリーにも女性会員はいらっしゃいます。地区のいろいろな委員会で議論しましたが、女性会員が存在することが問題ではなく、先月号でも取り上げました「就労を入会の条件とするのか」と、議論を吹っ掛けて、就労を外すことが現在のRI執行部の主張なのです。要するに会長をはじめ、RI執行部はロータリーの増強の為に就労経験のない「主婦」を入会させようとしているのです。組織の成り立ちの為に「変えても良いものと、変えてはならないもの」があります。RI執行部は「増強」という言葉の陰に隠れて「変えてはならないもの・ロータリーの原点」を根本から変えようとしています。

次に21ページにロータリーの友の編集長であり、ロータリアンである二神典子氏の意見がありますが、それはRI会長など執行部とは考え方が違うようです。

【21ページ】

二神編集長の「あなたのクラブに女性会員はいますか」と題する記事です。

記事には1978年のアメリカ・カリフォルニア・デュアルテRCの、女性入会に関するRIとの裁判の事例を取り上げて説明されていますが、我々が知らなかった過去のRIの姿が書いてあります。RIが訴訟に負けてデュアルテRCの認証を取り消せず、遂にロータリーに女性会員が登場した経緯です。しかし、二神編集長はこの例を挙げておられますが、日本の女性会員が増えないのは、日本のRCが女性会員を否定しているのではなく、女性の社会進出が遅れていることの反映ではないか、と述べておられます。さらに女性会員を無理に入れる必要はないが、「女性だから入れない」という考えは排除しなければならないと主張しておられます。この考え方には小職は賛成です、皆様は如何でしょうか？ただ、入りたいと希望する女性ならどの様な方でも入会させる、と云うのとは違いますし、現在のRI執行部が主張していることとは、違うのです。どう違うのかの答えは、次の推奨記事・6ページに明確に記載されています。

【6ページ】

毎月掲載されています「ロータリーとは」の記事です。

皆様御存知の通り、ロータリーはポールハリスが信頼できる3人の仲間と職業を通じて組織しました。記事も「このように歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになった」、と記載しています。すなわち、ロータリーは職業人の集まりです。その証拠は、この6ページの右側にあります「ロータリーの目的」に明確に書いてあります。特に第2条と第4条です。「職業上の高い倫理基準を保ち、・・・ロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。」「奉仕の理念で結ばれた職業人が、・・・国際理解、親善、平和を推進すること。」と定義されています。このロータリーの目的をどの様に読み直しても、曲解しても「主婦」が当該するとは認められないと小職は思っております。どうぞ、僭越ながら皆様に於かれましても、上



記しました会長メッセージ、二神編集長の主張、ロータリーの目的、を読んで頂いて検討して頂きたいと思っています。

【34ページ】

「ガバナーのページ」での、我ら2660地区の立野純三ガバナーの「公式訪問を終えて」の報告です。

立野ガバナーは「変えなければならないところ、変えてはいけないところ」を明確にして、今以上に2660地区が光り輝き、81の全クラブが地域に根差した社会貢献、国際的な奉仕活動を積極的に行い、誰もが入会したくなるような魅力ある組織、クラブに変化していくことを願いながら活動していく」と述べておられます。合同例会の開催など効率化を図りながら、81の全クラブを廻られて、年度方針の「変革を！ロータリーを通じて奉仕を！」とお願いされました。

【13ページ】

特集「子どもたち、若い人たちが夢を持てる未来のために」の記事です。

まず、2660地区・大東RC・中野国際奉仕委員長の記事ですが、大東RCがネパールのカトマンズ西RC、日本青年会議所、NPO法人と連携して、カトマンズのリハビリセンターへ複数年間も事業を行った報告です。蚊帳、文房具、縫製用具、寄付金だけでなく、日本の中学生と現地の子どもたちをいろいろな取り組みでつないで、お互いを育て、さらに両国の友好関係を築いた報告です。

続いて、東大阪RCがNPO法人の協力を得て、この9年間もの長い年月をかけてベトナムの3施設で3年間ずつ障がい児や親のいない子どもたちをいろいろな形で支援している取り組みの報告です。この取り組みで最も素晴らしいのは、目覚ましい経済発展をしているベトナムの現状の中で恵まれない子どもたちに光を当てる支援を実施したのですが、もっとも特筆すべきことは、この支援をきっかけに複数の会員の事業所が、8人ものベトナム技術者を正社員として採用したことにあると報告されています。ベトナム人の採用は単に物品の支援だけでなく、各会員が複数回にわたり現地に赴いて、人々と接することで実現した奉仕活動の一つだと締めくくっています。これは誠に素晴らしい取り組みです。これこそがロータリー

の根幹であります「職業奉仕」の一つの取り組みではないでしょうか。RIの執行部の人達に煎じて飲ませたいような、良い話です。

【64ページ】

「友愛の広場」のTOPを飾る大阪心齋橋RC・眞鍋氏の「愛と奇跡の友好クラブ協定調印式」です。

この物語は、今から35年前に遡ります、創立10周年を迎えた大阪心齋橋RCは、一人のフィリピン女性を奨学金で支援します。無事大学を卒業した彼女、バービー・リバデネイラ氏は事業に成功します。そしてロータリーから受けた恩を返したいとの思いで、フィリピンマカティブエンディアRCに入会し会長を務めた後、2010年にマカティオリンピアRCを創立したのです。彼女は若い時に受けた奨学支援が嬉しく忘れられず、遂に来日して今年度11月の心齋橋45周年記念式典の場で友好クラブ協定を締結しました。35年前の会員たちの愛と善意の種が花を咲かせ実を結び、素晴らしい結果を生むことが出来た涙溢れる「奇跡」の調印式だったそうです。実はこの投稿の根源として存在するのが、32～33ページに記載されています「バギオ基金」なのです。

(2)2660地区関連記事 ※上記以外

【41ページ】

「おまけ」の欄に、友・2月号の「印象に残った記事ベスト3」の第2位に「わがまち……そしてロータリー」の欄で東大阪市の記事が挙げられています。

【61～62ページ】

「友愛の広場」で東大阪RCが投稿された「台中RAC 30周年記念式典で感じたこと」の記事です。東大阪RCと台中RCは1969年に姉妹クラブの提携をしています。そして、それぞれのRACが昨年度に姉妹提携をしたのですが、台中RACの創立30周年式典に東大阪RACが参加した時に感じた思いの報告です。

【56～57ページ】

ロータリー俳壇 大阪北……吉田邦男
ロータリー柳壇 大阪大淀……長谷川眞哲
大阪東淀ちゃやまち……小坂克彦